

北海道胆振東部地震厚真町追悼式 式辞 【令和5年9月2日】

ご遺族の皆様並びにご来賓の皆様のご臨席のもと、令和5年北海道胆振東部地震厚真町追悼式を挙げるにあたり、町民を代表して、謹んで追悼の辞を捧げます。

北海道における観測史上初の震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、間もなく5年の歳月が流れようとしていますが、時を経てもなお最愛のご家族やご友人を失われた方々の無念さは、決して尽きることがありません。同じ場所で同じ時を共有した私たちにも再びやり場のない深い悲しみが胸にこみあげてまいります。改めてこの震災で犠牲となられた37名の方々に衷心より哀悼の意を表します。また、全町民が被災者となったあの日から、これまでの間において、被災者として様々な犠牲を払いながらも、必死に生きるという根本的な命題を見失わずに、これまで懸命に努力重ねてこられた皆様に心から敬意とお見舞いを申し上げます。

発災以来、捜索活動や応急活動にご尽力いただいた多くの関係機関の皆様やたくさんの支援者、復旧事業を担ってこられた様々な分野のエキスパートの皆さんには、改めて衷心より感謝申し上げます。お寄せいただいた温かいご支援の輪は、この5年間にさらに広がり、私たち厚真町民を支え続けていただいています。私たちはこれまでも現実から目を逸らすことなく、震災に埋もれた悲しいまちで終わらせない覚悟と再び輝きを取り戻す決意を幾度となく心に刻んでまいりました。

この5年間に、災害復旧として国直轄では砂防事業、かんがい排水事業、北海道施行による急傾斜地崩壊対策、被災農地復旧、治山事業、仮設住宅の建設、厚真町施行分では被災宅地復旧、災害廃棄物処理、浄水場などの公共施設復旧、災害公営住宅などの建設や農業者・商業者の経営再建に関する事業、道路や河川の災害復旧など所管する関係機関にご協力をいただきながら膨大な事業に取り組んでまいりましたが、各関係機関のご尽力と町民の皆さんのご理解とご協力により、復旧事業は加速し、社会・産業インフラの復旧は、本年度をもって大きな節目を迎えます。森林再生については、令和8年度までを重点取り組み期間として、これまでの取り組みをさらに加速させていきますが、心のサポートや宅地耐震化事業については、引き続き丁寧な対応を心がけてまいります。

災害復旧が一つの区切りを迎えた今、本町は、本格的に復旧から復興への取り組みに挑戦しています。いつ起きてもおかしくない自然災害に備えての庁舎周辺整備や防災・減災対策、エネルギー地産地消や省エネルギー・創エネルギー・吸収源対策を官・民・学で総合的に取り組んでいくカーボンニュートラル政策を展開し、着実に実装しながら復興の新たな骨格としてまいります。併せて分野別IoT技術の導入やSociety5.0など社会革新を取り込みながら次世代に向けた地域創生というハードルにも果敢に取り組んでまいります。私たちは困難な道を選択しているように見えますが、犠牲になられた方々や艱難辛苦に耐えて導いてくださった先人の不易流行の理念とともに、私たちの今日があると信じています。

本年7月22日、秋篠宮皇嗣、同妃両殿下に厚真町を御視察いただき、被災状況と復旧・

復興状況をご覧いただきました。また、時代を担う子どもたちとともに復興・森林再生を祈念して自らアカエゾマツをお手植えくださり、私たち多くの町民に優しくお声掛けくださいました。私たちは、かけがえのないものをたくさん失いましたが、心配し応援して下さる多くの関係者との新たな出会いがあり、新たな「絆」や「つながり」が生まれました。8月4日には、「胆振東部地震から5年シンポジウム」を開催し、研究者や技術者そしてサポートしていただいた方々の視点から、これまでの道のりを振り返り、改めて経過検証をしましたが、9月22日には第2弾として「復興まちづくりサミット2023」を開催します。また、被災者や尽力者の皆さんの貴重な証言集として復旧・復興記録誌を発刊します。これからも、防災・減災を目的とした教育や備えを通じて、決して震災記憶を風化させることなく、本震災が歴史に正しく記録されるよう努めてまいります。

地球に生まれ地球に還る私たちですが、全力で生き抜くため、愛する人たちを守り抜くため、いつ発生するかわからない災害に備え、たくさんのご支援を賜った私たちの使命として、今後も命を守る防災・減災対策を全道全国に先駆けて牽引してまいります。これから先も新たな困難に直面すると思いますが、「誰一人として取り残さない」を基本理念とする胆振東部地震からの復旧・復興にまい進するとともに、「挑戦を諦めない町」として未来創生と持続的発展に向けた歩みを町民一丸となって進めてまいります。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の「5類感染症」に移行したことを契機として、令和元年の追悼式以来の規模となりましたが、こうしてご遺族並びにご来賓、震災尽力者の方々の多くの皆様にご臨席いただきましたこと、改めまして心より感謝申し上げます。

結びに、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞といたします。

令和5年9月2日

厚真町長 宮坂尚市朗